

# I 平成 28 年度ハイレベル人材養成研修会受講者活動報告会

## II 事業所自己評価ガイドライン普及のための講師養成研修

日時:平成 29 年 12 月 8 日(金) 10:00~17:00

会場:大手町ファーストスクエアカンファレンス

参加者: 木村浩美

### I <活動報告>

- ①「小児訪問看護 多職種との連携」 群馬県看護協会訪問看護ステーション 山路聡子  
小児等在宅医療連携拠点事業の活動の展開として、小児に関わる多職種がお互いを理解し合う事が重要ということに至る。そこで多職種研修を企画し実施する。1 回目(71 名)講義とシンポジウム、2 回目(61 名)シンポジウムとグループワーク  
グループワークは同じ市町村や圏域メンバーにすることで、より話が深まった。  
\* 他のステーションとの協力もでき、訪問看護の質の底上げを図ることができた。  
\* 企画から参加することで、行政・相談支援専門員・学校関係者等とコネクションができた。
- ②「災害の取り組み」 訪問看護ステーションみけ(東京) 椎名美恵子  
東日本大震災を経験し、i 災害マニュアルのリニューアル(一冊 200 円)、ii 災害支援協力体制の構築 iii 災害訓練、iv 模擬災害を実施した。 今後は、災害セミナー・災害イベント・エリア毎の防災会議・災害訓練(相互支援協力)を行う。
- ③「出向研修事業」 富山県看護協会訪問看護熱ワークセンター 安井千明  
富山県の課題 i 訪問看護ステーションが少ない ii 小規模が多い iii 1 年未満の退職者が多い  
出向事業(富山県立中央病院の緩和ケア認定看護師とひよどり富山訪問看護ステーション)  
期間は 6 ヶ月 1 名で実施 H29 年度は県補助事業として 2 名 2 か所の事業所で実施
- ④「ハイレベル人材養成研修会の伝達研修」 福井赤十字訪問看護ステーション 山崎雪代  
伝達講習 講義(地域包括ケアシステムと在宅医療について、福井の現状と将来予測・取り組みについて、訪問看護ステーションについてとその支援) グループワーク  
\* 私たちの看護をどう見える化し伝えるか!?
- ⑤「在宅看取りの多職種連携合同研修会」 豊田地域訪問看護ステーション 加納美代子  
テーマ「ゆるやかな人生の終焉を生きる高齢者をサポートする」チームでどう関わり、支えますか?  
ブレイクコーヒータイトムも入れたグループワークを実施 2 事例を導入期や終末期でワークする。  
もっと訪問看護を伝え、地域の仲間を増やそう、「未来の普通」を目指そう、ごく自然に選択肢の 1 つとなるように。
- ⑥「訪問看護の普及/啓発」 訪問看護ステーション青空(沖縄) 下地節子  
訪問看護の量的・質的確保に関する研修として、看護の日特別講演「訪問看護師の役割とやりがい」として開催する。糖尿病や胃瘻など身近な事例で訪問看護を紹介する。

### II <事業所自己評価ガイドライン>

- ①「訪問看護ステーションにおける質の管理」 東京大学医学部健康総合科学科 山本則子  
ドナベディアン医療サービス評価モデル i 構造 ii プロセス iii 結果

実施を説明する言葉づくりを意識した事例研究～行われた看護の内容・意味・エッセンスを言葉で表す  
看護の質を可視化するために必要

②「訪問看護ステーションにおける事業所自己評価のガイドラインの使用方法」

全国訪問看護事業協会 清崎由美子

サービス評価としても求められる。各県で実施し、広報していく。

③「ガイドラインの普及方法について ①ガイドライン活用の実践報告」

訪問看護ステーションしらひげ 望月あづさ

管理者が出来ていると思ってもスタッフの評価が低い項目があった。

常勤と非常勤で評価が分かれる項目がある。

地域への働きかけがまだ足りない。

④「ガイドラインの普及方法について ②グループワーク ガイドライン普及のためのアクションプラン」

普及・活用促進部会長 新津ふみ子

全国訪問看護事業協会のホームページから印刷は出来る。

会員は、ホームページ上で入力・集計が出来る。